

中国大陸と台湾における指示詞の対照研究

——“这・那” から見た遠近認知の相違について（その2）——

鈴木 進 一

Suzuki (2010b) analyzed how Japanese demonstratives *are*, *kore*, *sore* were translated in two Chinese texts (Mainland China version and Taiwan version) of Haruki Murakami's novel, "Norwegian Wood". He argued that the usage of Chinese demonstratives *zhe* and *na* was not the same in the two Chinese versions, further indicating a different perspective cognition of the demonstratives between Mainland China and Taiwan.

This study, applying the same data-analyzing methodology in Suzuki (2010b), extended its target demonstratives to a broader range. The results confirmed Suzuki's (2010b) findings. That is, other demonstratives (except for Japanese *kou*, *sou*, *aa*) also showed the similar differences as was found in the translation of *are*, *kore*, *sore* and *zhe* and *na* in Mainland China and Taiwan.

キーワード：こ系・あ系，そ系，这・那，ゆれ，遠近認知

1. はじめに

鈴木（2010b）では，村上春樹の小説『ノルウェイの森』の中における日本語指示詞「これ・それ・あれ」について，大陸版と台湾版の2つの中国語訳を比較し，大陸と台湾における指示詞の使用実態に違いがあることを示した。そしてこれにより大陸と台湾では遠近認知について違いがあると結論付けている。これについては，更に次の2つの面から考察が必要と思われる。

① 鈴木（2010b）では日本語指示詞「これ・それ・あれ」についてのみ、その中国語訳を取り出して比較しているが、その他の指示詞、例えば「この・その・あの」、「こんな・そんな・あんな」、「こう・そう・ああ」等についてはどうなのであろうか。同じような傾向を見せるのか、或いは異なる傾向を見せるのか、他の指示詞についても調査する必要があると思われる。

② 鈴木（2010b）では、『ノルウェイの森』で得られた結果を、別のリリー・フランキーの小説『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』（以下では『東京タワー』と記す）で検証しているが、さらに他の小説を調査したときにも同じような結果が得られるのであろうか。小説に限らず、より多くの文字資料を調査する必要があると思われる。

本稿では上の①、②のうち、①に的を絞って調査した。すなわち『ノルウェイの森』のすべての日本語指示詞に関して、大陸版と台湾版の中国語訳を比較調査することにした。

2. 調査方法

調査方法の第1段階では、『ノルウェイの森』の中のすべての日本語指示詞を取り出し分類した。それらは「これ・それ・あれ」、「この・その・あの」、「こんな・そんな・あんな」、「こう・そう・ああ」、「ここ・そこ・あそこ」、「こいつ・そいつ・あいつ」の6種類に分類できた。

そのうち、「ここ・そこ・あそこ」の類には、「こっち、そっち、あっち」、「こちら・そちら・あちら」など、いわゆるこれまで「場所」や「方向」を指す代名詞或いは指示詞と分類されてきたものはすべてこの類に入れ、その類を「ここ・そこ・あそこ」で代表した。

第2段階は、6種類の分類のそれぞれを「こ系」、「そ系」、「あ系」、「その他」の4つに分類した。ここで「その他」とは、例えば「これ・それ・あれ」の類を例にとると、「あれこれ、どれもこれも、それぞれ、これみよがしの、これとって、…」など、2つの指示詞を同時に使い、2つ一緒になって1つの意味をなすものや、慣用的なものである。

第3段階は、日本語指示詞の中国語訳を大陸版訳と台湾版訳から抜き出

し、次の①から④の4つの項目に分類した。

- ① 「这」—— 対応する訳の中に“这”が含まれているもの。
- ② 「那」—— 対応する訳の中に“那”が含まれているもの。
- ③ 「这・那以外」—— “这・那”を使わずに訳されているもの。この中には、訳としては1対1に対応していないが、全体として日本語の原文に近い意味を表しているものも、省略されずに訳し出されていると判断し、この分類に含めた。
- ④ 「無対応」—— 日本語の指示詞に対応する部分が訳されていないもの。

以上の3つの段階を経て調査を行った。

3. 日本語指示詞

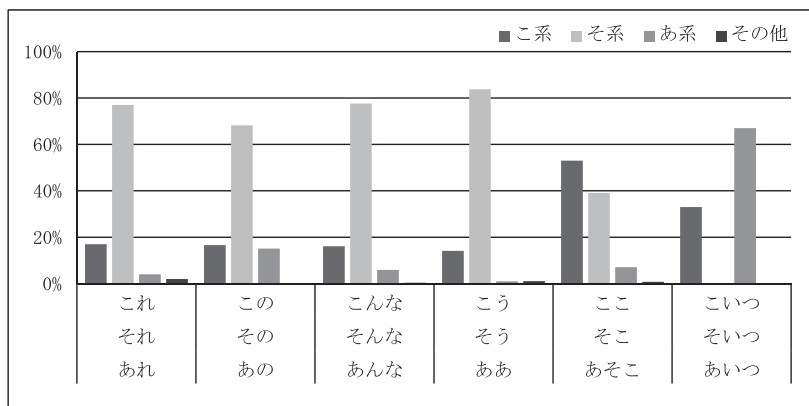
『ノルウェイの森』のすべての日本語指示詞を取り出し分類した結果は、表1のようになった。表1をグラフで表したものがグラフ1である。

一般的に人を指す指示詞「こいつ・そいつ・あいつ」は、用例が非常に少なく全部で6例だけであった。他の指示詞と同様に百分率も出したが、用例数が少なすぎるため、他の指示詞と単純に比較することはできない。次節の第4節から第6節までは「こいつ・そいつ・あいつ」を除いて話を進め、第7節でまとめて取り扱うことにする。

表1 日本語指示詞

指示詞 系統	これ それ あれ	この その あの	こんな そんな あんな	こう そう ああ	ここ そこ あそこ	こいつ そいつ あいつ
こ系	230(17%)	187(16.6%)	76(16.1%)	115(14.1%)	194(53.0%)	2(33%)
そ系	1043(77%)	769(68.2%)	366(77.6%)	683(83.8%)	143(39.1%)	0(0%)
あ系	62(4%)	171(15.1%)	28(5.9%)	8(1.0%)	26(7.1%)	4(67%)
その他	22(2%)	1(0.1%)	2(0.4%)	9(1.1%)	3(0.8%)	0(0%)
合計	1357	1128	472	815	366	6

グラフ1 日本語指示詞



「こいつ・そいつ・あいつ」を除いて調査結果を観察してみると、「これ・それ・あれ」, 「この・その・あの」, 「こんな・そんな・あんな」, 「こう・そう・ああ」の4つの類に関しては、すべてそ系が、こ系やあ系よりも多く使われている。最高は「そう」の83.8%, 最低でも「そう」の68.2%で、約7, 8程度がそ系であることが分かった。

ところが場所・方向を指す指示詞を集めた「ここ・そこ・あそこ」の類では、こ系とそ系を比較したとき、他の4つの類とは異なり、こ系の方がそ系より多くなっている。他の4類のこ系が14.1%から17%であるのに対し、「ここ」では53%と、他の4類に比べ約3, 4倍程度多くこ系が使われている。

4. 日本語指示詞の中国語訳

この節では、はじめに鈴木(2010)における『ノルウェイの森』の指示詞「これ・それ・あれ」の中国語訳に関する調査結果の要点をまとめ、続いて、今回更に調査した4組の指示詞「この・その・あの」, 「こんな・そんな・あんな」, 「こう・そう・ああ」, 「ここ・そこ・あそこ」の調査結果と比較する。上で断った通り、「こいつ・そいつ・あいつ」については用例数が非常に少ないので第6節まで考察の対象から外し、第7節でまとめて取り上げることにする。

4.1 「これ・それ・あれ」についてのまとめ

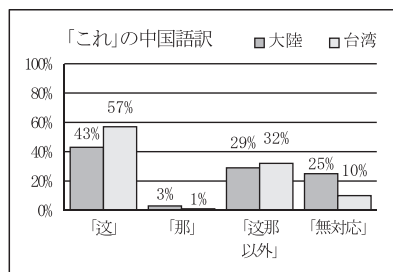
「これ・それ・あれ」の調査結果を表したグラフ2から4より、次のようなことが読み取れる。

- ① 「これ」に対しては「这」, 「あれ」に対しては「那」の割合が一番多い。そしてこの傾向は大陸版と台湾版を比較したとき、台湾版の方に強く現れている。
- ② 「それ」については「这」, 「那」よりも、「这那以外」(「这・那」を使わない訳)が一番多く、「無対応」(訳されないもの)も比較的多い。
- ③ 「それ」について、さらに2つの面から見てみる。

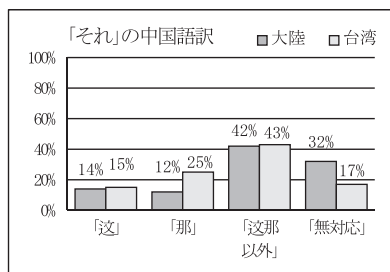
まず大陸版の「这」, 「那」と台湾版の「这」, 「那」を比較してみる。大陸版の方は「这」が「那」より2ポイント多く、大陸版では“这”の方が“那”よりやや多く使われている。一方台湾版の方は「那」が「这」より10ポイントも多く、台湾版では逆に“这”より“那”の方が多く使われている。

次に「这」の大陸版と台湾版, 「那」の大陸版と台湾版を比較してみる。「这」については台湾版の方が大陸版よりも1ポイント多く、台湾版の方が大陸版よりも少しだけ多く“这”を使っている。一方「那」については、台湾版の方が大陸版より13ポイント多く、台湾版の方が大陸版より約2倍多く“那”を使っている。「这」, 「那」の両方において、台湾版の方が大陸版より“那”を多く使っているのが分かる。

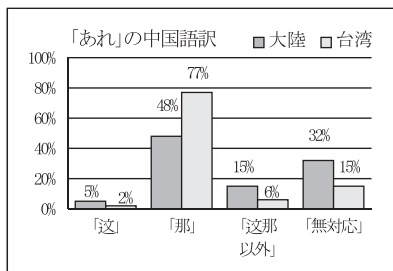
グラフ2



グラフ3



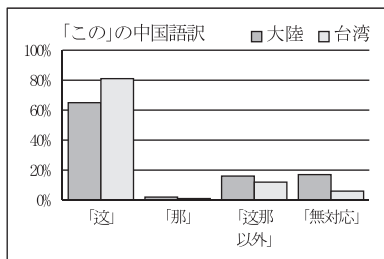
グラフ4



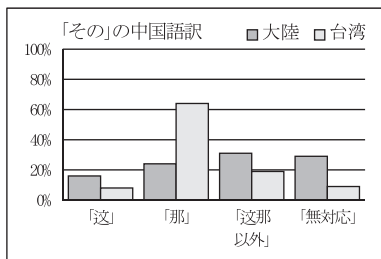
4.2 「これ・それ・あれ」と他の指示詞との比較

ここでは4.1で「それ」についてまとめた①から③の項目に関して、他の4組の指示詞「この・その・あの」, 「こんな・そんな・あんな」, 「こう・そう・ああ」, 「ここ・そこ・あそこ」の調査結果と比較してみる。

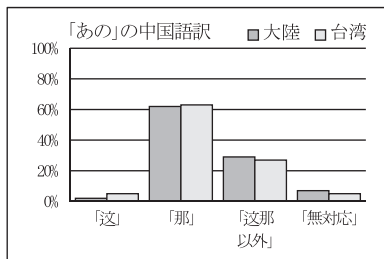
グラフ5



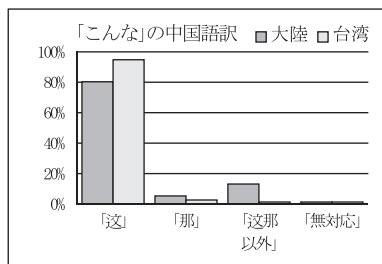
グラフ6



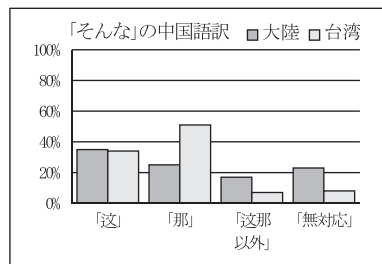
グラフ7



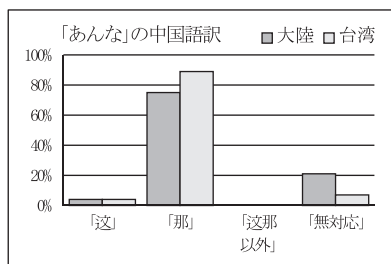
グラフ 8



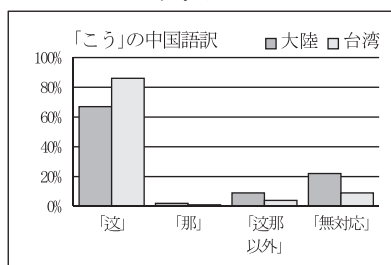
グラフ 9



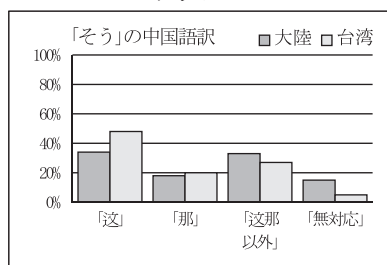
グラフ 10



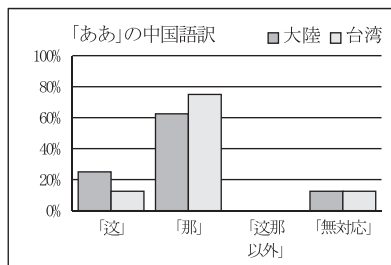
グラフ 11



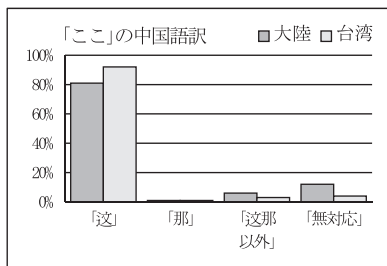
グラフ 12



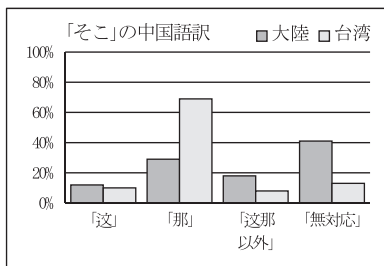
グラフ 13



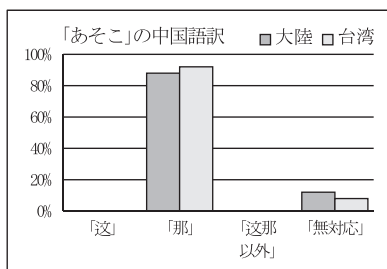
グラフ 14



グラフ 15



グラフ 16



- ① 「これ」対しては「这」の割合が,「あれ」に対しては「那」の割合が一番多かったように,他の4組の指示詞についても,こ系に対しては「这」の割合が,あ系に対しては「那」の割合が一番多い。特に場所・方向を指す指示詞「ここ・そこ・あそこ」の組においては,「ここ¹」に対して「这」が8, 9割を占め,「あそこ²」に対しては大陸版,台湾版ともに“这”を使った訳は1つもなく,「那」は両版で9割前後を占めている。

こ系,あ系に現れた上記のような傾向は,「これ」,「あれ」のときは台湾版の方が大陸版よりも強く現れていたが,「それ」以外の4組の指示詞を見ても,やはり大陸版よりも台湾版の方により強く現れている。

- ② 「それ」については,「这」,「那」よりも,「这那以外」が一番多く,「無対応」も比較的多かったが,「それ」以外の4つのそ系指示詞につい

ては様々な結果が現れている。

大陸版のそ系指示詞の訳で最も多いのは、「そんな・そう」では「这」,「その」では「这那以外」,そして「そこ」では「無対応」が一番多かった。

一方台湾版のそ系指示詞の訳では、「その・そんな・そこ」で「那」が一番多く、「そう」では「这」が一番多かった。

- ③ 「それ」について、大陸版の「这」,「那」と台湾版の「这」,「那」を比較したとき、大陸版では「这」の方が「那」よりやや多く、台湾版では逆に「那」の方が「这」より多かった。この点に関して「それ」以外の4つのそ系指示詞の訳を見てみると、大陸版で「这」が「那」より多いのは「そんな・そう」の2つで、逆に大陸版で「那」の方が「这」より多いのは、「その・そこ」の2つであった。一方台湾版で「这」が「那」より多かったのは「そう」1つだけであるが、逆に「那」が「这」より多く使われているのは「その、そんな、そこ」の3つあった。

「それ」について、「这」の大陸版と台湾版、「那」の大陸版と台湾版を比較したとき、台湾版の方が大陸版より、「这」も「那」もともに多かった。この点について「それ」以外の4組のそ系指示詞はどうであろうか。「这」については、「その・そんな・そこ」は大陸版の方が台湾版よりも多く、「そう」については台湾版の方が逆に大陸版より多かった。「那」については「それ」も含めると5つのそ系指示詞すべてで台湾版の方が大陸版よりも多かった。

5. こ系・あ系指示詞とその中国語訳

前節までにおいて、日本語と中国語の指示詞の対応関係において、こ系指示詞に対しては“这”, あ系指示詞に対しては“那”が基本的に対応していることが分かった。以下ではこれを簡単に「基本対応」と呼ぶ。

しかしほんのわずかであるが、この「基本対応」に反する、つまりこ系に対して“那”を、あ系にたして“这”を対応させた中国語訳が存在する。一体なぜこのような使い方がされたのであろうか、本節ではそれらの用例について分析を行う。ここで取り上げるのは原文の同一箇所を大陸版、台湾版の双方が「基本対応」に反する対応となっているものだけを取り上げる。表2の通り、全部で6例あった。

表2 「基本対応」に反する用例

指示詞の種類	こ系	あ系
これ・それ・あれ	2	0
この・その・あの	1	1
こんな・そんな・あんな	1	0
こう・そう・ああ	0	1
ここ・そこ・あそこ	0	0
合計	4	2

- (1) a 「…しかしもし現実の世界にこういうデウス・エクス・マキナ
 というのがあったとしたら、これは楽でしょうね。…」
 (村上・下：91)

- b “要是现实世界中也有解围之神出现，那该有多妙啊！…”
 (林：227)

- c 「不過如果現實世界裏有所謂的機械降神的話，那一定很快
 樂。…」 (頼・上：63)

- (2) a 「その林の中の道を行くとロータリーに出ますから左から二本
 目の——いいですか、左から二本目の道を行って下さい。する
 と古い建物がありますので、そこを右に折れてまたひとつ林を
 抜けるとそこに鉄筋のビルがありまして、これが本館です。…」
 (村上・上：192)

- b “沿这条林中道一直往前，有个转盘式交叉路口。左数第二
 条——记住了么，走左数第二条路，不远就是一座旧建筑，从那
 里再往右穿过一片树林，有一座钢筋混凝土大楼，那就是主楼。
 …” (林：112)

- c 「順著那林間的路走到一個圓環然後從左邊第二條——聽清

楚噢，左邊第二條路下去。然後就有一棟古老建築物，從那裏右轉再穿過一個林子就有鋼筋水泥樓房，那就是總館。…」

(頼・上：132-133)

- (3) a 『…このまま，この人に抱かれたまま，一生これやってたいと思ったくらいよ。本当にそう思ったのよ』 (村上・下：273)

- b ‘…真想就那样在他怀抱里一生都干那事。真那么想的。’
(林：335)

- c 『…甚至讓你覺得想要被他就那樣抱著，做一輩子噢。我真的那樣想。』 (頼・下：190)

- (4) a 「…それが二十四のときでね，この時は七ヵ月療養所に入ってたわ。ここじゃなくて，ちゃんと高い塀があって門の閉っているところよ。汚くて，ピアノもなくて……私，そのときはもうどうしていいかわかんなかったわね。でもこんなところ早く出たいっていう一念で，死にもの狂いで頑張ってたのよ。…」 (村上・上：244)

- b “…这是在我二十四岁的时候。当时我在疗养院住了七个月。不是这里，是围着很高的院墙，大门紧闭的地方。又脏又没有钢琴……那时我不知如何是好。但我还是一心想离开那里，拼死拼活地配合治疗。(林：142)

- c 「…那是二十四歲的時候，當時去療養院住了七個月。不是這裏，而是有牢固高牆，大門緊閉的地方。又髒又沒有鋼琴……我，那時候已經不知道該怎麼辦才好了。只一心想著快點從那裏出去，拚死也要努力康復。…」 (頼・上：165)

(1)から(4)までにおいて共通するのは，話の現場にない事物を日本語の原文ではすべてこ系指示詞で指していることである。このようなこ系指示詞の使い方について，久野（1973）では，

コー系列も、目に見えないものを指すのに用いられる場合があるが、これはあたかも、その事物が、目の前にあるかのように、生き生きと叙述する時に用いられるようで、依然として、眼前指示代名詞的色彩が強いようである。(『日本文法研究』:187)

ここで久野のいう「眼前指示代名詞」とは、いわゆる現場指示用法の指示詞を指している。

久野の記述における「目の前にあるかのように」の部分で、筆者は次のように考える。心理的に、話し手が指示する事物を話の現場の空間に引き込んできたり、或いは、話し手自身が指示する事物の存在する空間に話の現場から移動することによって、話し手と指示する事物が同じ空間を共有することになり、まるでその事物が「目の前にあるかのように」感じて近称のこ系指示詞が使われるのである。このような解釈の下に、(1)から(4)を見てみよう。

(1)の原文 a では、先行する文が仮定文で、その先行文を後続する文の文頭において「これ(は)」で指している。このような場合日本語では「それ(は)」や更に口語的な「そりゃ(あ)」で指すこともできる。先行文中には「こういうデウス・エクス・マキナ」という表現があり、すでに話の現場の空間に「デウス・エクス・マキナ」が引き込まれている。先行文は仮定文という非現実性から心理的にはやや遠いと感じられ、そ系指示詞が使われてもおかしくないが、指示する事物が心理的に目の前にあるので、後続の文頭でその事物を含む前文を近称のこ系指示詞で指したのである。

b, c の中国語訳では遠称の“那”で指している。呂叔湘(2002)によれば、この用法の“那”については、大多数の前文は仮定文(“要是那样”)であり、わずかに既成の事実を表す文(“既然那样”)がある。“这”で前文を指すことも可能であるが、“这”の用例は多くなく、しかもこの用法の“这”はすべて“那”に置き換えることができるとしている。

先行文が非現実的な仮定文であり、それが翻訳者に心理的に遠いと感じさせ、その結果両版の訳において遠称の“那”が使われていると考えられる。

(2)の原文 a では指示対象の「本館」は話の現場には存在せず、「本館」

への行き方を説明をしている門番とそれを聞いている主人公ワタナベには見えていない。目には見えていない「本館」を門番が近称の「これ」で指しているのは、門番が心理的に林を抜けその建物の前に移動し、門番と「本館」は同じ空間を共有することにより心理的に近いと考え「これ」を使ったのである。

しかし中国語訳の方は、目に見えない建物を近称の“这”を使って指すことには抵抗があり、二人の翻訳者はともに物理的に遠いと感じて、遠称の“那”を使ったと考えられる。

(3)の原文 a は数か月前に起こったことを思い出して話している場面である。立て続けに「このまま、この人、これやったい」と3つのこ系指示詞が続いている。話し手は心理的に数ヶ月前の出来事が起こった空間に移動し、事態が起こっている真っ只中で、指示する事物を近くに感じて近称のこ系指示詞が使われているのである。ところが直後に、「本当にそう思ったのよ」というソ系指示詞を使った発話があり、出来事が起こっていた空間から、発話の現場の空間に一瞬にして戻ったことが分かる。このように空間の心理的移動は瞬時に行われる。

一方中国語訳では、数ヶ月前に起こったことはやはり時間的に遠い出来事と翻訳者は判断し、両版の訳でともに遠称の指示詞が使われている。

(4)の a は(3)よりさらに昔の、15年くらい前に入所した療養所の話をしていいる。話し手は心理的に当時の療養所内の空間に移動し、「こんなところ」と近称指示詞を使っている。

ところが中国語訳の方は、話の現場から以前入所した療養所をみて、時間的にも空間的にも遠いと判断し、遠称の“那”が使われているのである。

次の(5)と(6)は遠称のあ系指示詞に対し、中国語訳では近称の“这”が対応している用例である。

(5) a 「君は何かアルバイトしてる？」

「うん、地図の解説を書いているの。ほら、地図をかうと小冊子みたいなのがついてるでしょ？ 町の説明とか、人口とか、名所とかについていろいろ書いてあるやつ。ここにこういうハイ

キングコースがあって、こういう伝説があって、こういう花が咲いて、こういう鳥がいてとかね。あの原稿を書く仕事なのよ。…」(村上・上:132)

b “你在打什么零工？”

“呃，写地图解说词。知道吧，卖地图时不是附带一份小册子吗？上面有城镇的说明，有人口和名胜的介绍等等。例如这里有如此这般一条郊游路线，有如此这般一个传说，开着如此这般的花，飞着如此这般的鸟，这个那个的，我的工作就是写这类解说稿。…”(林:76)

c 「妳有沒有打什麼工？」

「有，我在寫地圖的解說。你知道，買地圖的時候不是會附什麼小冊子嗎？當地街道的說明啦，人口啦，名勝啦，寫各種有關這些的東西。這裏有這樣的登山路線，這樣的傳說，開這樣的花，有這樣的鳥之類的。就是寫這種稿子的工作啊。…」

(賴・上:91)

日本語の指示詞「あの」は「仕事」を修飾し、二人の共通認識の中にある仕事を「あの仕事」と指している。

2つの中国語訳ではどちらも原稿を意味する“解説稿，稿子”の前に近称の“这”が置かれ，修飾しているのは原稿の方である。もしこの位置に“那”を置き，直前で“这”を連発して説明していた原稿を“那”を使って指した場合，距離感に齟齬が生じ不自然となる。原文と中国語訳の間で遠近の異なる指示詞が使われているのは，修飾する語の選択が異なることに起因する。

(6) a 二本目のはわりにまともな映画だったが，まともなぶん一本目よりもっと退屈だった。やたら口唇性愛の多い映画で，フェラチオやクニニリングスやシックスティー・ナインをやるたびにぺちゃぺちゃとかくちゃくちゃとかいう擬音が大きな音で館内に響きわたった。…

「誰がああいう音を思いつくんだろうね」と僕は緑に言った。

(村上・上：160-161)

- b 第二部影片较为正规些，惟其如此，比第一部还要无聊。口交镜头纷至沓来，还满场响起了很大的模拟音。…

“这声音是哪个琢磨出来的呢？”我问绿子。（林：268）

- c 第二部還算是比較正常的電影，但也因為正常所以比第一部更無聊。口交性愛特別多的電影，每次做吹簫，品玉或六九式時，吱吱啾啾的配音便擴大地響遍館內。…

「是誰想出這種聲音的啊？」（賴・下：114-115）

(6)は、主人公ワタナベと彼のガールフレンドである緑が映画を見ているとき、ワタナベが緑に話しかけた場面である。原文は、前方のスクリーンと聞こえてくる音を一体とみなし、音は話し手から離れたところにあるとして、遠称のあ系指示詞「ああ」を使っている。

中国語訳の方は、スクリーンと音を切り離し、自分の耳に到達した音について、近称の“这”を使って指している。

胡俊（2005）には、中国語小説の日本語訳から、同様の問題を取り上げている。

- (7) a “请问这炮声在什么地方，离这里有多远？”

“在对河。离这里五六里。”（王鲁彦《秋夜》）

- b 「あの砲声はどこからしているんですか，ここからどれぐらい離れているんですか」

「川の対岸だよ。ここから五，六キロかな」（下出宣子「秋夜」）

(7)のaの原文では5，6キロも離れた所から耳に到達する砲声を近称の“这”を使って指しているが，bの日本語訳では音の発せられる場所に音があるものとみなし，遠称の「あの」を使って訳している。

これについて胡（2005）では，

日本語では、音源の位置を基準にして、音をとらえる傾向が強いのに
 対し、中国語では、音響を基準として音をとらえる傾向が強いのである。

(胡 (2005) : 42)

と解説しているが、筆者が調べたところでは、次の(8)のように中国語でも
 音源を基準にした訳がある。

- (8) a 僕は遠くでいるかホテルの音を聞いた。まるで遠くから風に
 乗って聞こえてくる夜汽車の音のように。

(村上『ダンス・ダンス・ダンス』・下 : 337)

- b 我已经听见了远处老海豚宾馆的声音，那声音就像远处随风传来的
 夜班车火车声。(林《舞！舞！舞！》：445)

日中の音源か音響かの問題は、さらに多くのデータを集めて検証する必
 要がある。

6. そ系指示詞と“这・那”の関係

こ系と“这”，あ系と“那”の対応が比較的明らかなのに対し，そ系と
 “这・那”の対応は，それほどはっきりしていない。大陸版，台湾版のそ
 れぞれの版の中だけでも“这”を使うか“那”を使うかで「ゆれ」，また大
 陸版と台湾版の両方を比較したときも，どちらの版で“这”が多くなるか，
 “那”が多くなるかで「ゆれ」が現れている。そこで本節では，そ系指示
 詞と“这・那”の関係について詳しく調査結果を分析する。

ここではそ系指示詞の中国語訳を，“这・那”を使用した訳に限定した
 とき，“这・那”それぞれがどれくらいの割合で使用されているか調査し
 た。

本稿の最後に資料として添付した，5組の指示詞とその中国語訳をまと
 めた表の中から，そ系指示詞と，中国語訳の分類で「这」，「那」の部分だ
 けを取り出して作ったのが表3である。表3の括弧内の割合を示す数値は，
 表1と異なっている。表3の算出方法は，“这”の使用数と“那”の使用数
 の総和を全体とし，それに対する“这”または“那”の使用数の割合を，

それぞれ百分率で求めたものである。

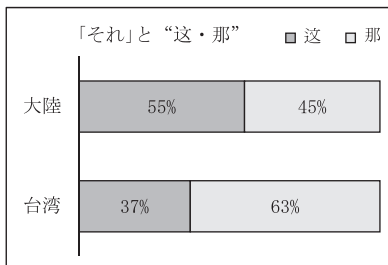
また、表3の内容を棒グラフで示したものがグラフ17から21である。

表3 そ系指示詞と“这・那”

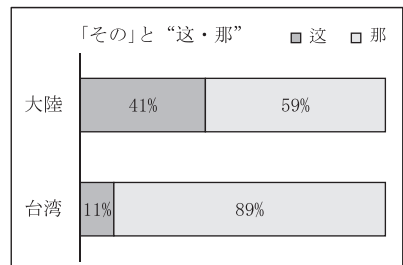
指示詞 这・那	それ		その		そんな	
	大陸	台湾	大陸	台湾	大陸	台湾
「这」	99(93%)	130(98%)	124(41%)	59(11%)	129(58%)	123(40%)
「那」	7(7%)	3(2%)	181(59%)	490(89%)	92(42%)	185(60%)
合計	106	133	305	549	221	308

そう		そこ	
大陸	台湾	大陸	台湾
232(65%)	331(71%)	17(29%)	14(12%)
123(35%)	137(29%)	42(71%)	99(88%)
355	468	59	113

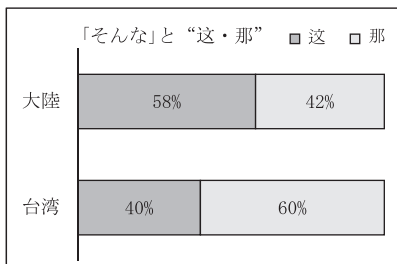
グラフ 17



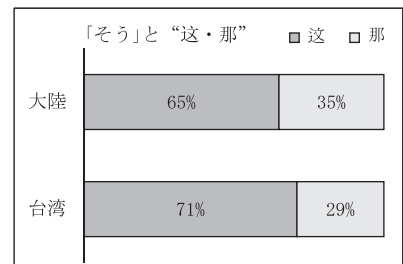
グラフ 18



グラフ 19



グラフ 20



グラフ 21

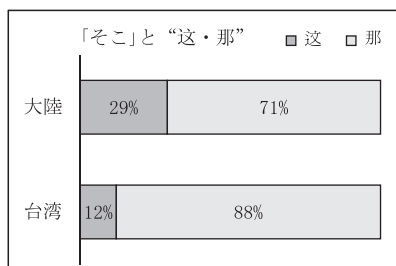


表3やグラフ17から21より分かることを整理すると次のようになる。

- ① 「それ・そんな」はかなり近い結果を示している。この2つの指示詞は、大陸版では“这”が“那”より多く、台湾版では逆に“那”の方が“这”よりも多い。しかも割合の数値も近い値を示している。
- ② 「それ・その・そんな・そこ」の4つの指示詞について大陸版と台湾版を比較すると、“这”については大陸版の方が台湾版よりもすべて割合が多くなっていて、逆に“那”については台湾版の方が大陸版よりもすべて割合が多くなっている。
- ③ 大陸版で“这”が“那”より少なくなっているのは、「その・そこ」の2つの指示詞である。このとき台湾版でも同様に“这”が“那”より少ないのであるが、その割合が他の「それ・そんな・そう」のときと比べて著しく少なく、わずか10%余りである。“那”の方はともに90%近くにも達している。
- ④ ③とは逆に、台湾版で“那”の割合が“这”の割合よりも少なくなっているのは、「そう」だけである。このとき大陸版でも“那”は“这”より少ないのであるが、他の4つのそ系指示詞に比べて、“那”の割合が一番少ない。
- ⑤ 「そう」は5つの指示詞の中で大陸版と台湾版の数値が一番近く、わずかに6ポイントの違いである。

- ⑥ 5つの指示詞について、“这・那”の使用割合を大陸版と台湾版で比較してみる。“这”に関して見てみると、大陸版では最大値は「そう」の65%，最小値は「そこ」の29%であり、その差は36ポイントである。一方台湾版では最大値は「そう」の71%，最小値は「その」の11%であり、その差は60ポイントある。必然的に“那”に関しても同様の差が得られる。

そ系指示詞の中国語訳で“这・那”を選択する際、大陸版の方が選択の差が少なく、台湾版の方が選択の差が大きい。

表やグラフから読み取ったことを分析する。

まず⑤については、様態の指示詞「そう」自体に指示の機能がほとんどなく、それが2つの中国語訳にも反映されることによって、大陸版と台湾版の2人翻訳者の持つ距離感に顕著な差となって現れなかったと解釈できる。

次に②については、「それ」だけでなく「その・そんな・そこ」についても、“这”は大陸版の方が多く、“那”は台湾版の方が多いという傾向が現れ、鈴木（2010）のいう大陸と台湾の間に遠近認知の違いが存在することは、『ノルウェイの森』に関する限りは正しいと言える。

最後に①、③、④、⑥については、①のような“这・那”のバランスが崩れると、⑥から分かるように、その変化は台湾版の方が大陸版より大きく現れている。要するに、“这・那”の選択に関して、大陸版は台湾版より「ゆれ」が小さく、台湾版は大陸版より「ゆれ」が大きいことを示している。

7. 「こいつ、そいつ、あいつ」について

前節までは「こいつ・そいつ・あいつ」を除いて話を進めてきたので、最後に一般的に人を指すときによく使われるこれらの指示詞について、調査結果を見ることにする。用例は、「そいつ」が全くなく、「こいつ・あいつ」が全部で6例だけなので、すべてを下に挙げることにする。

- (1) a 僕の同居人が病的なまでに清潔好きだったからだ。僕は他の連中に「あいつカーテンまで洗うんだぜ」と言ったが誰もそんなことは信じなかった。（村上・上：31）

- b 这都是因为我的同室者近乎病态地爱洁成癖。我告诉别人说：“那家伙连窗帘都洗！”但谁都摇头不信。（林：15）
- c 因為我的室友是個愛乾淨到接近病態的人。我跟別人說「那傢伙連窗簾都洗」時，誰也不相信。（賴・上：24）
- (2) a 「だからね、ときどき俺は世間を見まわして本当にうんざりするんだ。どうしてこいつらは努力というものをしないんだろう、努力もせずに不平ばかり言うんだろうってね」
（村上・下：113-114）
- b “所以，有时我环顾世人就气不打一处来——这些家伙为什么不知道努力呢？不努力何必还牢骚满腹呢？”（林：241）
- c 「所以，有時候我環視整個世間覺得真厭倦。為什麼這些傢伙都不努力呢，為什麼不努力卻光會抱怨不公平呢？」
（賴・下：82）
- (3) a 「そのとき思ったわ、私。こいつらみんなインチキだって。適当に偉そうな言葉ふりまわしていい気分になって、新入生の女の子を感心させて、スカートの中に手をつっこむことしか考えてないのよ、あの人たち。…」（村上・下：67）
- b “那时我就想来着，这些家伙全是江湖骗子，自鸣得意地炫耀几句高深莫测的牛皮大话，博取新入学女孩子的好感，随后就把手插到人家裙子里去——想的全是这玩艺儿，那号人。（林：213）
- c 「那時候我想。那些傢伙都很虛偽。隨便賣弄一些好像很偉大的言詞就洋洋得意，其實心裏只想讓新入學的女生佩服，好把手伸進人家的裙子裏去喲，那些傢伙。」（賴・下：48）

(1), (2)のb, cそして(3)bは「基本対応」, すなわち, あ系には“那”, こ系には“这”が対応している。(3)cは「基本対応」に反して, こ系に“那”

を対応させている。

(2), (3)の「こいつら」は、ともに話の現場にいない者を指している。第5節で取り上げた用例では、話の現場にいない事物を指すときの中国語訳は、両版ともに遠称の“那”が使われていた。(3)cの台湾版訳はまさに第5節のように訳されているが、その他の訳を見ると、中国語でも近称の“这”で指すことができるのが分かる。筆者の日本語こ系指示詞に関する見方を中国語にも適用してみると、(2), (3)のような場合、話し手は話の現場から指示する人物が存在する空間に、心理的に移動し、その人物と同じ空間を共有することにより、まるで「目の前にあるかのように」感じて近称の“这”が使われたと解釈できる。

次の(4)から(6)は、“那”を使った訳の他に、人称代名詞が使われている用例である。

- (4) a 「…俺ですむことならなんでもしましょう、だからそれで話をまとめて下さいって言ったよ。そしたらお前ナメクジ飲めって言うんだ。いいですよ、飲みましょうって言ったよ。それで飲んだんだ。あいつらでかいの三匹もあつめてきやがったんだ」
(村上・上：70)

- b “…如果问题能在我本人身上解决，我干什么都在所不惜，把话说清就行。于是那家伙叫我生吞蛞蝓，我说好，那就吞。就是这样吞的。那家伙找了三条大大的来。”（林：38）

- c 「…只要能辦到什麼我都做，所以請把事情做個解決。於是他們竟然說那你把蛞蝓吃掉。好啊，我說吃就吃吧。於是我就吃了。他們竟然找了三隻大的來呢。」（賴・上：50）

- (5) a 突撃隊がいてくれたらなあと僕は残念に思った。あいつさえいれば次々にエピソードが生まれ、そしてその話さえしていればみんなが楽しい気持ちになれるのに、と。（村上・上：266）

- b 我惋惜地想，要是敢死队还在就好了。只要那家伙在，笑料就会

源源不断产生，而只要一提那笑料，人们便顿时心花怒放。真是遗憾之至！（林：115）

- c 要是突擊隊在的話就好了，我很遺憾地想道。只要有他在就會接二連三地生出插曲來，而只要一談起那些大家就會心情愉快。
（賴・上：179）

- (6) a 「そしてまわりの連中の悪口をかたっぱしから言ったの。あいつはアホだ，クソだ，疥癬病みの犬だ，豚だ，偽善者だ，盗人だって，そういうのずうっと言ってたのよ。…」
（村上・下：152）

- b “边喝边把那些家伙逐个骂了一遍：谁是傻瓜，谁是混蛋，谁是癞皮狗，谁是蠢猪，谁是伪君子，谁是扒手，如此骂将下去，…”
（林：263）

- c 「並且把周圍一個個人的壞話全數落盡了。那個傢伙是笨蛋，臭屎，癩皮狗，豬，偽君子，強盜之類的，痛快地罵個夠。…」
（賴・下：109）

日本語の「こいつ・そいつ・あいつ」が一般的に人を指す指示詞なので，中国語訳では(4)c，(5)cの台湾版訳のように人称代名詞を使って指すことがある。特に(6)の「あいつ」は，日本語の原文では特定の人物を指しているわけではないので，bの大陸版訳では不定の意味を表すために，疑問の人称代名詞を使っている。

8. おわりに

鈴木（2010）では、『ノルウェイの森』および『東京タワー』における指示詞「それ」と，大陸版と台湾版の中国語訳における“这・那”の使用割合を調べることで，大陸と台湾の間で距離認知に違いがあり，

大陸では台湾よりも指示対象を話し手の近くに捉える傾向があり，逆に，台湾では大陸よりも話し手から遠くに捉える傾向のあることが分か

る。(鈴木2010: 361)

という結論出している。本節では、この点に関して今回の調査結果から分かったことを付け加えて、『ノルウェイの森』のそ系指示詞の中国語訳から得られた、大陸と台湾の距離認知に関する知見をまとめる。そして最後に、残された課題を整理する。

- ① そ系指示詞について、大陸版と台湾版の“这・那”の使用割合を比べると、「それ」だけでなく「それ・その・そんな・そこ³」の4つの指示詞について、大陸版の方が台湾版よりも“这”が多く使われ、台湾版の方が大陸版よりも“那”が多く使われていたことが分かった。

『ノルウェイの森』の2つの中国語訳に限定すれば、指示する事物を、大陸版の方が台湾版よりも近くに捉え、台湾版の方は逆に大陸版よりも遠くに捉える傾向が、「それ」だけのときよりもさらに広がったと言える。

- ② 「そう」についてだけは①の傾向が認めらなかった。「そう」に関する調査結果の特徴は、調査した中では大陸版と台湾版で一番似通った“这・那”の使用割合を示していることである。台湾版の方が大陸版よりも“这”が多くなっているが、その差は調査した5種類のそ系指示詞の中では一番少ない。このことから、様態の指示詞「そう」自体には指示の機能がほとんどなく、それが両版の中国語訳に反映され、結果的に両版で遠近の差が最も少なくなって現れたと考えられる。従って「そう」の調査からは、大陸版と台湾版の遠近認知の違いについての情報を得るのは困難であることが分かった。

- ③ 「それ・そんな」のような“这・那”のバランス(グラフ17, 19参照)をもとにして、そのバランスから“那”が増加した状態、例えば「その・そこ」のような状態(グラフ18, 21参照)を見ると、大陸版よりも台湾版の方で“那”の増加は大きい。また逆に“这”の方が増えた状態、つまり「そう」の示す状態(グラフ20参照)を見ると、やはり台湾版の方が大陸版よりも“这”の増加が大きくなっている。このことよりそ系指示詞に対して“这・那”を選択する際、大陸版は台湾版

に比べ“这・那”選択の「ゆれ」が少なく、台湾版は大陸版よりもその「ゆれ」の大きいことが分かった。

「その・そんな・そこ」からも、鈴木（2010）における「それ」と同様の傾向が現れたのであるが、依然として本稿の冒頭に提出した2つ目の問題点が残る。すなわち、作品や翻訳者が変わっても同様の結論が得られるのかどうかという問題である。この問題と今回新たに出てきた上記③の問題、すなわち“这・那”を選択に関する大陸と台湾の「ゆれ」の大きさの問題とを併せて、作品や翻訳者を換えて調査していくことを今後の課題としたい。

テキスト

- 村上春樹 2006 『ノルウェイの森』（上・下） 講談社
 村上春樹 2006 《挪威的森林》（林少华译） 上海译文出版社
 村上春樹 2003 《挪威的森林》（賴明珠譯）（上・下） 時報文化出版
 リリー・フランキー 2005 『東京タワー オカンとボクと、時々、オ
 トン』 扶桑社
 村上春樹 1990 『ダンス・ダンス・ダンス』（上・下） 講談社
 村上春樹 2009 《舞！舞！舞！》（林少华译） 上海译文出版社

注

- 1 「ここ・こちら・こっち…」など、場所・方向を指すこ系指示詞を代表して「ここ」を使っている。
- 2 「あそこ・あちら・あっち…」など、場所・方向を指すあ系指示詞を代表して「あそこ」を使っている。
- 3 「そこ・そちら・そっち…」など、場所・方向を指すそ系指示詞を代表して「そこ」を使っている。以下における「そこ」もすべて同様。

参考文献

- 呂叔湘 2002 「近代汉语指示詞」《呂叔湘全集第三卷》 辽宁教育出版社
 久野暉 1973 『日本文法研究』 大修館書店
 胡俊 2005 「日本語と中国語の指示詞についての対照研究—現場指示用法の場合—」

- 『地域政策科学研究』2 （鹿児島大学大学院人文科学研究科） 29-51
- 胡俊 2006 「日本語と中国語の指示詞についての対照研究—文脈指示用法の場合—」
『地域政策科学研究』3 （鹿児島大学大学院人文科学研究科） 1-23
- 鈴木進一 2009 「明治以降における日本語指示詞研究の歴史」『人文研究』No. 168
（神奈川大学） 189-237
- 鈴木進一 2010a 「現代中国語指示詞の研究史—“这，那を中心に” —」『言語と文化
論集』第16号 （神奈川大学大学院） 123-148
- 鈴木進一 2010b 「大陸と台湾における指示詞の対照研究—“这・那”の距離認識の相
違について—」『日本中国語学会第60回全国大会予稿集』 357-361
- 鈴木進一 2011 「中国大陸と台湾における指示詞の対照研究—“这，那”から見た遠
近認知の相違について」『人文研究』No. 174 （神奈川大学） 157-174

資料 5組の指示詞と中国語訳

表1 「これ・それ・あれ」と中国語訳

指示詞 訳の分類	これ		それ		あれ	
	大陸	台湾	大陸	台湾	大陸	台湾
「这」	99(43%)	130(57%)	147(14%)	153(15%)	3(5%)	1(2%)
「那」	7(3%)	3(1%)	122(12%)	261(25%)	30(48%)	48(77%)
「这那以外」	66(29%)	74(32%)	444(42%)	445(43%)	9(15%)	4(6%)
「無対応」	58(25%)	23(10%)	330(32%)	184(17%)	20(32%)	9(15%)
合計	230		1043		62	

表2 「この・その・あの」と中国語訳

指示詞 訳の分類	この		その		あの	
	大陸	台湾	大陸	台湾	大陸	台湾
「这」	122(65%)	152(81%)	124(16%)	59(8%)	3(2%)	8(5%)
「那」	4(2%)	2(1%)	181(24%)	490(64%)	106(62%)	108(63%)
「这那以外」	30(16%)	23(12%)	237(31%)	146(19%)	50(29%)	47(27%)
「無対応」	31(17%)	10(6%)	222(29%)	74(9%)	12(7%)	8(5%)
合計	187		769		171	

表3 「こんな・そんな・あんな」と中国語訳

指示詞 訳の分類	こんな		そんな		あんな	
	大陸	台湾	大陸	台湾	大陸	台湾
「这」	61(80.3%)	72(94.8%)	129(35%)	123(34%)	1(4%)	1(4%)
「那」	4(5.3%)	2(2.6%)	92(25%)	185(51%)	21(75%)	25(89%)
「这那以外」	10(13.1%)	1(1.3%)	60(17%)	27(7%)	0(0%)	0(0%)
「無対応」	1(1.3%)	1(1.3%)	85(23%)	31(8%)	6(21%)	2(7%)
合計	76		366		28	

表4 「こう・そう・ああ」と中国語訳

指示詞 訳の分類	こう		そう		ああ	
	大陸	台湾	大陸	台湾	大陸	台湾
「这」	77(67%)	99(86%)	232(34%)	331(48%)	2(25.0%)	1(12.5%)
「那」	2(2%)	1(1%)	123(18%)	137(20%)	5(62.5%)	6(75.0%)
「这那以外」	10(9%)	5(4%)	226(33%)	181(27%)	0(0.0%)	0(0.0%)
「無対応」	26(22%)	10(9%)	102(15%)	34(5%)	1(12.5%)	1(12.5%)
合計	115		683		8	

表5 「ここ・そこ・あそこ」と中国語訳

指示詞 訳の分類	ここ		そこ		あそこ	
	大陸	台湾	大陸	台湾	大陸	台湾
「这」	158(81%)	179(92%)	17(12%)	14(10%)	0(0%)	0(0%)
「那」	2(1%)	2(1%)	42(29%)	99(69%)	23(88%)	24(92%)
「这那以外」	12(6%)	5(3%)	26(18%)	12(8%)	0(0%)	0(0%)
「無対応」	22(12%)	8(4%)	58(41%)	18(13%)	3(12%)	2(8%)
合計	194		143		26	